



学校だより

# 桐里っ子

須坂市立井上小学校

平成27年2月24日

文責：教頭 渋谷

校庭でサッカーに興じる子どもたちが増えてきました。日が長くなってきていて、しだいに暖かな日差しを感じるようになりました。心配されているインフルエンザは、先週1学年の1クラスが学級閉鎖になりましたが、今週からは元気に授業が再開しました。しかし4年の1クラスは今週の月曜日から学級閉鎖となり、暖かくなってきたといえども予断できない状況です。

今月に行われている、今年度最後の高・中・低学年参観日には、お忙しい中大勢の方にご参観いただきました。特に高学年参観日は急な大雪でグラウンドへの駐車ができなくなり、大変ご不便をおかけしましたがご協力ありがとうございました。

平成26年度も、あと3週間の登校日となりました。よりよい学年のまとめができるよう、全力で指導支援にあたってまいります。

## 校長講話（2月4日）より ～日本とトルコの交流～

125年前、明治23年の話です。600人が乗船したトルコのエルトールル号が和歌山県沖で台風に遭い沈んでしまいました。乗組員は荒れ狂う真っ暗な海に投げ出されました。翌朝のことです。海岸に助かった乗組員が流れ着きました。村人はさっそく海岸に助けに行きましたが、外国の言葉が全く分かりません。しかし、冷えきって命が危険なほど体温が下がった彼らを、村の男達は裸になってその体温で暖めました。実はこの方法はとても理にかなった方法なのです。そして、貧しい村が、今までいざという時のために蓄えておいた鶏やサツマイモを乗組員たちに食べさせて、69人を助けることができました。それから、時が過ぎ、今から30年ほど前のことです。イランとイラクの戦争が激しくなる中でイランに取り残されてしまった日本人が200名ほどいました。イラクの攻撃まで、あと1日。日本からの救援は間に合いません。その時、トルコの飛行機2機が、この日本の人を助けにイランの空港まで来てくれたのです。なぜ、この時、トルコは危険を承知しながら2機の飛行機を飛ばして救援に駆けつけたのか？それは125年前のエルトールル号の沈没事故の時の村人の救援によるものなのです。100年前の恩を返してくれたのです。今でもトルコの歴史の教科書には沈没事故の救援のお話が載っているそうです。今日は、日本とトルコの歴史的な関わりのお話をしました。皆さんはどんな事を感じたでしょうか？教室で話し合ってみてください。

### <連絡・お願い>

急に陽気がよくなりましたので、外に出て遊ぶ児童が増えてきております。次の点にご留意ください。

- (1) 児童の自転車乗りにつきましては、道路が積雪や凍結している場合には厳禁となっております。暖かくなってきかしても、天候の状況によっては積雪がなくても、朝夕など凍結する場合がありますので、安易に乗り出さないよう声かけをお願いします。
- (2) 3月からの帰宅時刻は、夕方5：30と30分遅くなります。陽が長くなっておりますが、早めの帰宅をご指導ください。
- (3) 卒業時期に向け、全員元気に活動していきたいと思っております。うがい・手洗いの励行を家庭でもよろしくをお願いします。